平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２８	都道府県・指定都市名	兵庫県
ふりがな 学校名 （生徒数）	こくりつだいがくほうじん　ひょうごきょういくだいがくふぞくちゅうがっこう 国立大学法人　兵庫教育大学附属中学校（321名）		

（本研究に係る問い合わせ先）

所在地：　兵庫県加東市山国 2007-109
電話番号：　0795-40-2222

研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.hyogo-u.au.jp/middle/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：　社会科
○研究のキーワード：　思考の可視化，コーネルメソッド
○研究成果のポイント：

①コーネルメソッドを活用して，板書内容からキーワードを抽出させて学習内容をまとめさせることで，生徒の主体的な授業参加と授業の振り返りを促すことができる。
②生徒自身に自らの思考の過程を可視化して確認させることで，思考力･判断力･表現力の向上に結び付けることができる。
③１時間１時間の授業において，課題設定からまとめまでの流れをつくることで，教師自身に授業の構造化を意識付けることができる。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

主体的に学びを深める生徒の育成―思考を可視化する工夫～ノート指導を通じて―

（２）研究主題設定の理由

本校では，「主体的に学びを深める生徒の育成」を研究主題として，協同学習に取り組んでいる。社会科においては，資料を活用して，それをていねいに読み取る指導や，効果的な言語活動を用いた授業を展開しているところである。

社会科は暗記科目という意識も強いが，獲得した知識・技能をいかに活用し，日常の中にある諸課題の解決に役立てるかということが重要であるため，様々な社会的事象を多面的・多角的に考察する力が必要と考えられる。そこでノート指導を工夫することによって，生徒自身に自らの思考の過程を可視化して確認させることで，授業内容の定着を図るとともに，思考力を高めることができると考える。

（３）研究体制

○社会科教員がそれぞれ地理的分野，歴史的分野の授業の中でノート指導に当たる。
○校内の職員研究会において授業研究を行い，研究内容について発表，協議する。
○兵庫教育大学教員の指導を受けることで，研究を深める。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年	・校内教科部会において，研究の方向性や実施方法について具体的な計画を協議する。（４月） ・コーネルメソッドを活用した授業実践を行う。（５月～２月） ・校内研究部会において授業研究を行い，大学の教員からの助言を得る。

度	（９月） ・研究発表会において授業公開するとともに、研究紀要において報告を行う。 （10 月）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①コーネルメソッドを活用して授業ノートの取り方について工夫を行い，生徒の思考を可視化することで，基礎的・基本的な知識･技能の定着を促すとともに，思考力を高めることができる指導方法を研究した。

具体的には，１時間の授業の学習課題となる「問い」を提示し，板書の中から生徒個人が授業内容のキーワードを抽出し，それを組み合わせる中で，授業の学習課題となる「問い」に対する答えを導き出し，その過程や結果をノートに記述させる活動を行った。この活動を通して生徒の思考力がどのように高まったか生徒のノート分析やアンケート等から検証した。

②本来のコーネルメソッドはノートを３分割して使用するものだが,学習課題となる「問い」を書くスペースを指定して，４分割するようにした。

③授業全体の流れを，ノートの中で構成することができるように，ワークシートを併用した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①当初，授業の最後にノートまとめをさせると，感想を書く生徒もいたが，学習課題を意識させることで，課題に対する答えとしてまとめられるようになり，思考の可視化につながった。

②キーワードについては，最初は教師から指定をしていたが，徐々に生徒自身にキーワードを選択させるようにすることで，主体的な授業参加につながった。

③授業時間中にまとめを行う時間がとれなくなることが多かったが，課題とすることにより，次の授業時に前時の復習として活用することができた。

（２）研究成果の意義等

①授業のまとめとして１年間ノート指導を継続することで，表現力の向上につながるとともに，思考を可視化されたノートづくりをすることで生徒自身による授業内容の構造的理解につながった。

②生徒が主体的に学びを深めるためのノートづくりを考えるならば，ノートの自由度を高めるような板書の構成を考えるべきだが，ただ写すだけの板書にならないような工夫が必要であることが確認できた。

③授業時間が足りなくなる等の問題を解決するためには，提示する学習課題の検討，１時間の授業全体を構造化する必要があることが分かった。

（３）指定期間終了後の取組

①生徒の発達段階やノート活用の習熟の度合いを見きわめ，学年や時期を勘案して，段階的にキーワードの選択の仕方を変更したりするなど，長期的な取組を継続する。

②形成的な評価を行うためのノート指導について研究したい。

③ノート活用の工夫とともにコーネルメソッドを応用して授業内容を構造化したワークシートの作成についても検討したい。